

4.3 生態系の人為的な攪乱状況（外来種の分布状況）

鳥類の場合は、渡り鳥のように自ら大移動を行う種も多くいますが、アヒルなどのように家禽と飼われていたものや、ベニスズメなどのようにペットとして飼われていたものが逃げ出し、野生化して自然界へも広がっている例がみられます。

このような外来種が生態的に優勢な場合、在来の生物種を圧迫したり、自然界では起こらない交雑によって地域で保有されていた固有な遺伝子の喪失をもたらしたりすることで、生態系へ様々な影響を与えることが懸念されています。ここでは、人為的な生態系の攪乱を明らかにするために、外来種ではありますが同時に馴染み深い種でもあるコブハクチョウ、アヒル、ベニスズメ、また、特定外来生物に指定されているソウシチョウ、ガビチョウなどの確認状況について整理しました。

【外来種（コブハクチョウ、アヒル、ベニスズメ、ソウシチョウ、ガビチョウ）の確認状況】 (鳥類調査)

・ **外来種のアヒルを北海道を除く日本全国の一級河川 12 河川で多数確認**

外来種のコブハクチョウ、アヒル、ベニスズメ、特定外来生物のソウシチョウ、ガビチョウについて確認状況を整理しました。

コブハクチョウは関東地方の常陸利根川と中国地方の日野川で確認されました。アヒルは東北地方から九州地方の 12 河川で確認されました。ベニスズメは関東地方の鶴見川と富士川で確認されました。ソウシチョウは九州地方の筑後川で、ガビチョウは東北地方の阿武隈川、関東地方の鶴見川、富士川、九州地方の筑後川で確認されました。

(資料掲載：4-43～48、4-52 ページ)

確認河川数の比較（対象河川：23 河川）

種類	前々回 調査	前回 調査	今回 調査
コブハクチョウ	1 河川	1 河川	2 河川
アヒル	12 河川	13 河川	12 河川
ベニスズメ	2 河川	5 河川	2 河川
ソウシチョウ	0 河川	0 河川	1 河川
ガビチョウ	1 河川	0 河川	4 河川

コブハクチョウは、ユーラシア大陸に広く分布している種であり、国内では動物園や公園等で飼育されていますが、逃げ出して、しばしば湖沼や河川で確認されるようになってきています。アヒルは、食肉と卵を取るためにマガモから品種改良された鳥類であり、農家などで飼育されていますが、逃げ出して野生化しています。ベニスズメは、ビルマからインドの河原やヨシ原、農耕地に生息する種ですが、観賞用として輸入されており、本州以南で野生化し繁殖しています。

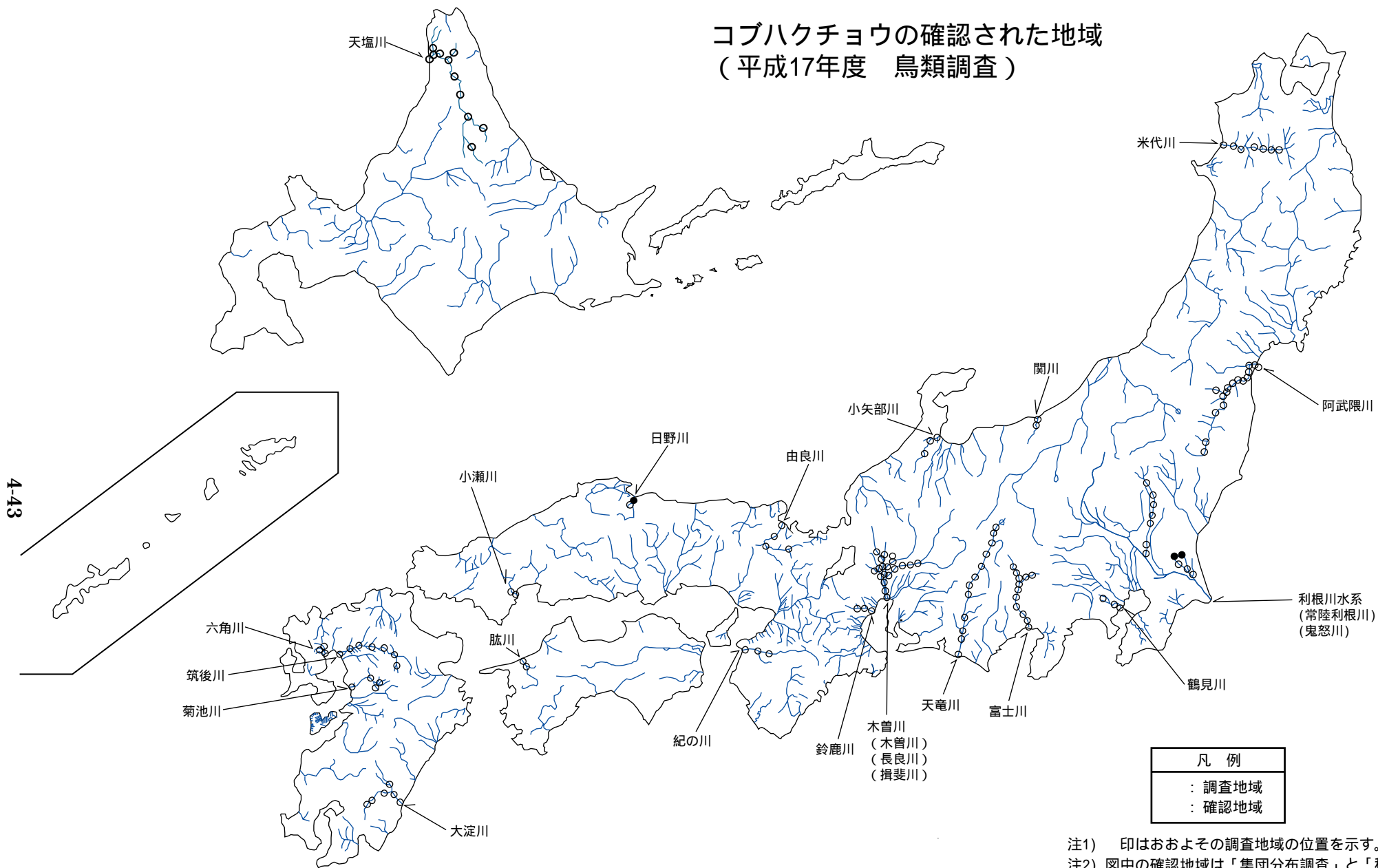
コブハクチョウは関東地方の常陸利根川と中国地方の日野川で確認されました。アヒルは、本州以南の 1 級河川 12 河川で確認され、河川数は前々回、前回とほとんど変わりませんでした。個体数の多い河川は、東北地方の阿武隈川（67 個体）、近畿地方の紀ノ川（56 個体）、九州地方の筑後川（54 個体）などでした。ベニスズメは、今回は関東地方の鶴見川と富士川で確認され、

前回から比べると減少傾向にあると思われます。

特定外来生物に指定されているガビチョウ、カオジロガビチョウ、カオグロガビチョウは、いずれも東アジア、東南アジアを原産とする種ですが、主に鳴き声を楽しむためのペットとして輸入されていました。ソウシチョウも、東アジア、東南アジアを原産とする種で、観賞用のほか、伝統的な化粧品であるウグイスの糞の代用品として飼育されていたこともあります。いずれも飼育個体の逃亡ないしは故意の放出が、野外への定着の主因であるとされています。主に低地林に定住し、これらの種が優占しているところもみられ、長期的には在来種への直接・間接の負の影響も懸念されています。

今回の調査でカオジロガビチョウ、カオグロガビチョウは確認されませんでした。ソウシチョウは九州地方の筑後川で、ガビチョウは東北地方の阿武隈川、関東地方の鶴見川、富士川、九州地方の筑後川の4河川で確認されました。

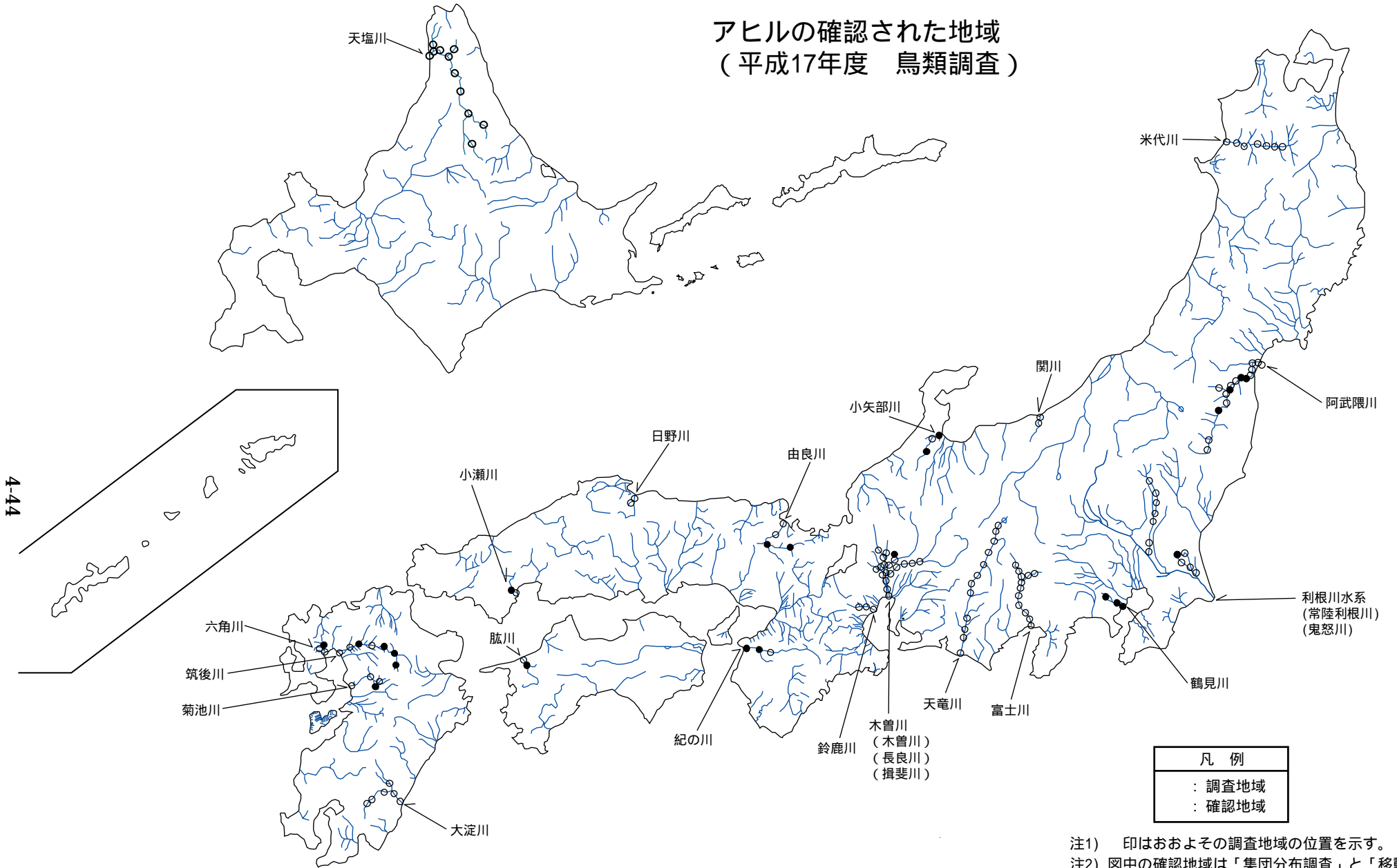
コブハクチョウの確認された地域 (平成17年度 鳥類調査)



4-43

- 注1) 印はおおよその調査地域の位置を示す。
- 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。
- 注3) 印の河川は、「集団分布調査」もしくは「移動時調査」のみでの確認であることを示す。

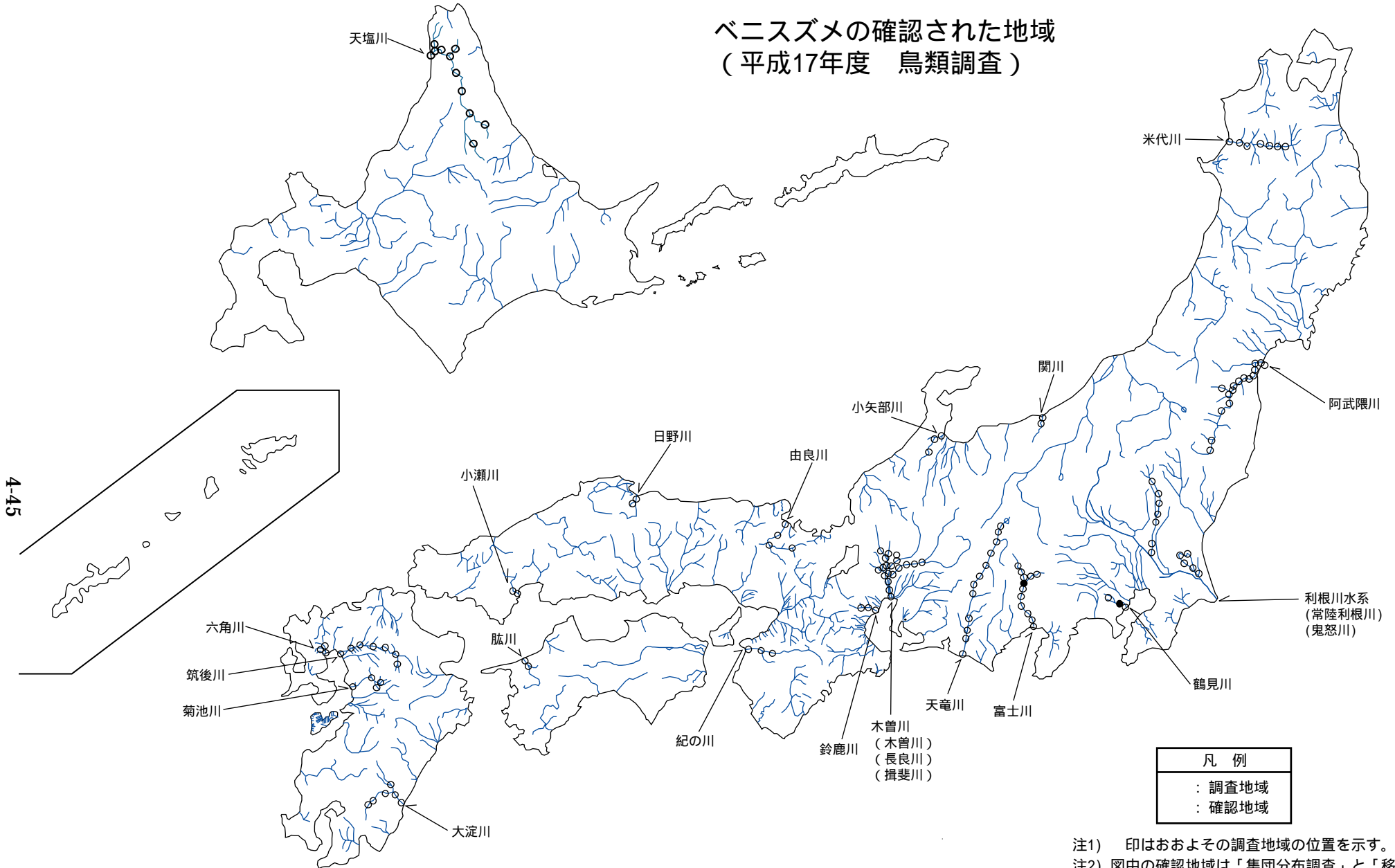
アヒルの確認された地域 (平成17年度 鳥類調査)



4-44

- 注1) 印はおおよその調査地域の位置を示す。
- 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。
- 注3) 印の河川は、「集団分布調査」もしくは「移動時調査」のみでの確認であることを示す。

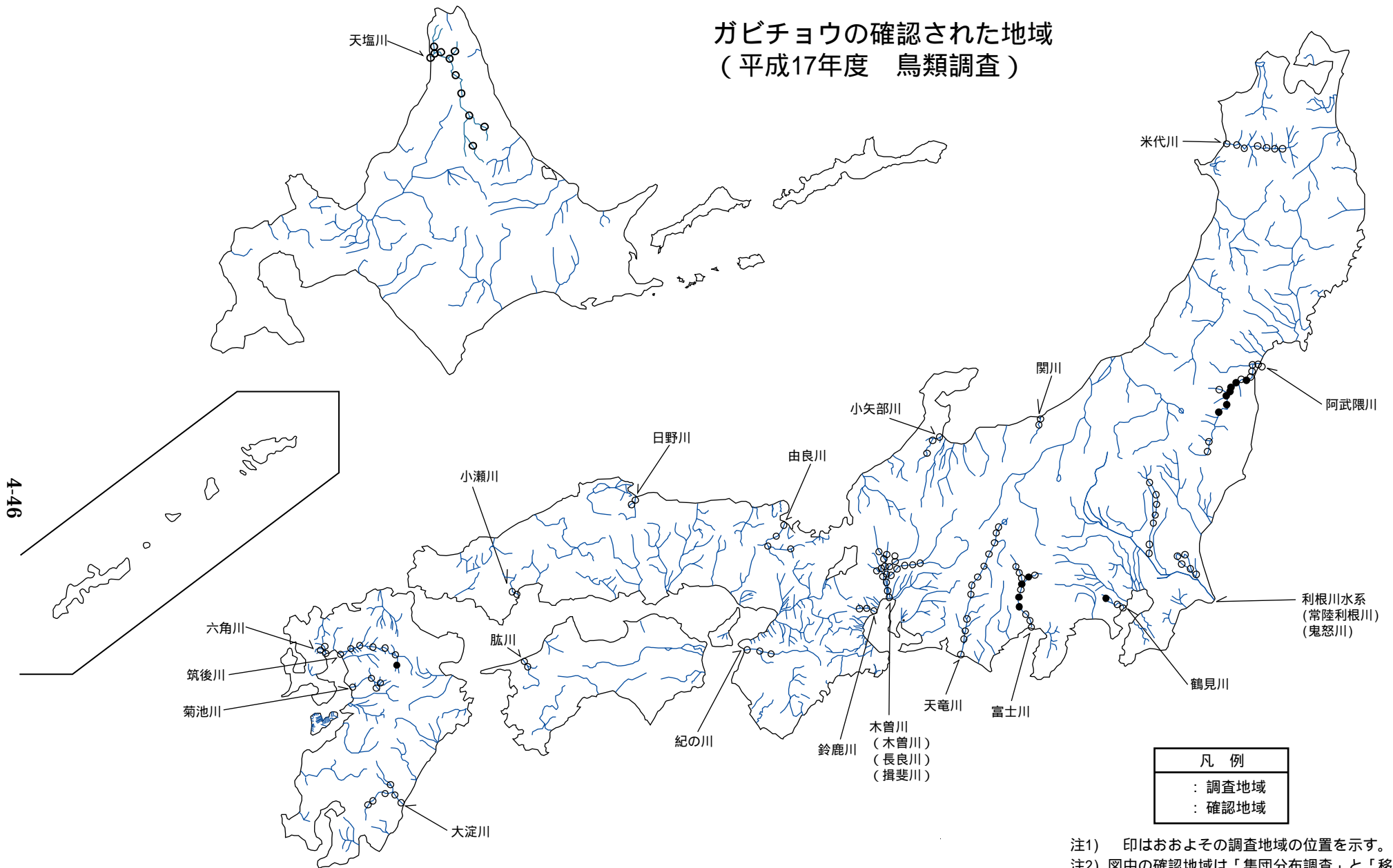
ベニスズメの確認された地域 (平成17年度 鳥類調査)



凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注1) 印はおおよその調査地域の位置を示す。
 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。
 注3) 印の河川は、「集団分布調査」もしくは「移動時調査」のみでの確認であることを示す。

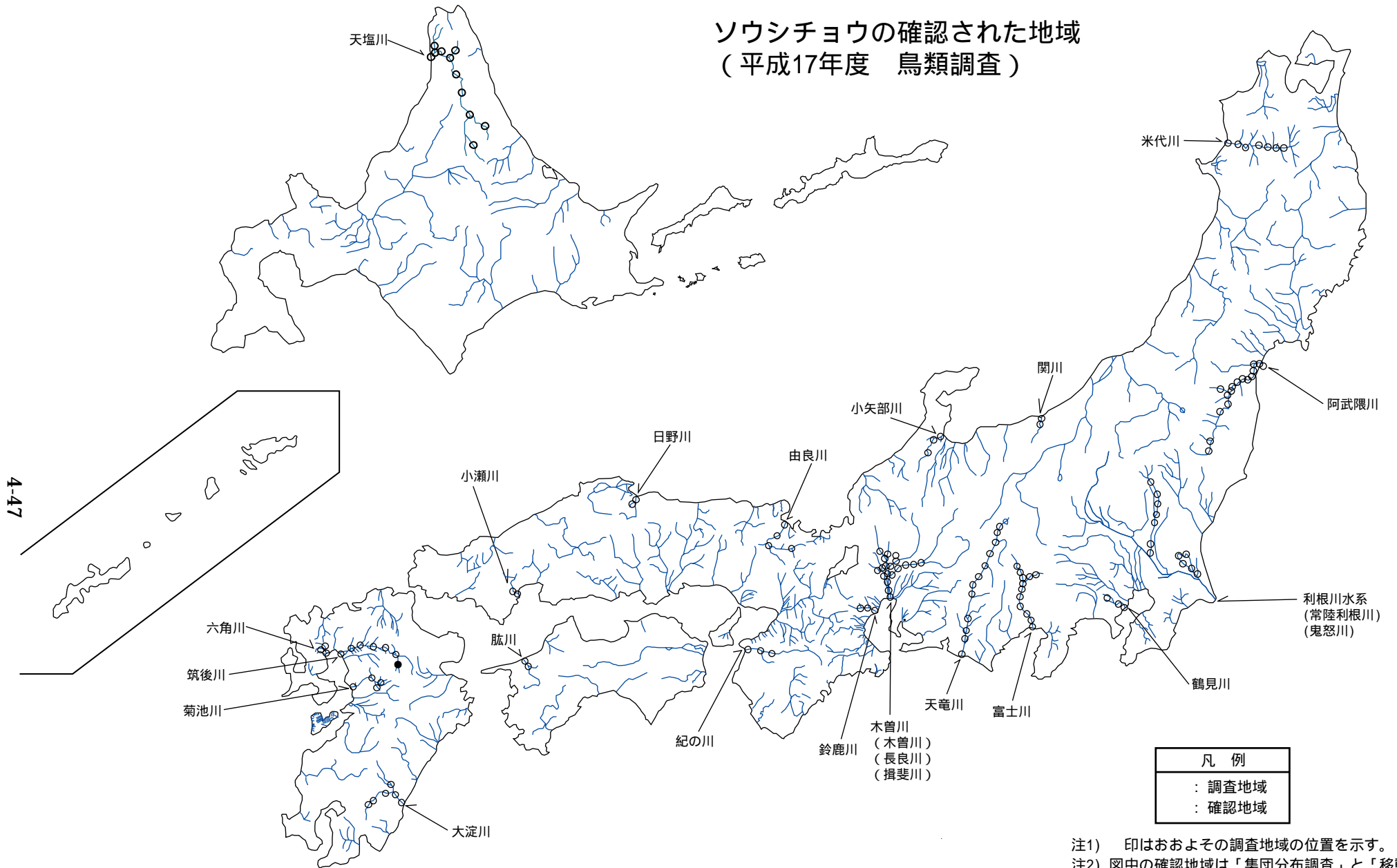
ガビチョウの確認された地域 (平成17年度 鳥類調査)



4-46

- 注1) 印はおおよその調査地域の位置を示す。
 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。
 注3) 印の河川は、「集団分布調査」もしくは「移動時調査」のみでの確認であることを示す。

ソウシチョウの確認された地域 (平成17年度 鳥類調査)



4-47

注1) 印はおおよその調査地域の位置を示す。
 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。
 注3) 印の河川は、「集団分布調査」もしくは「移動時調査」のみでの確認であることを示す。

外来種の確認個体数

地方	河川名	カモ目		スズメ目		
		カモ科		カエデチョウ科	チメドリ科	
		コブハクチョウ	アヒル	ベニスズメ	ソウシチョウ	ガビチョウ
北海道	天塩川					
東北	阿武隈川		67			34
	米代川					
関東	利根川（常陸利根川）	5	1			
	利根川（鬼怒川）					
	鶴見川		35	1		1
	富士川			1		12
北陸	関川					
	小矢部川		5			
中部	天竜川					
	木曽川（木曽川）					
	木曽川（長良川）		13			
	木曽川（揖斐川）					
	鈴鹿川					
近畿	由良川		5			
	紀の川		56			
中国	日野川	3				
	小瀬川		30			
四国	肱川		6			
九州	筑後川		54		4	4
	六角川		1			
	菊池川		3			
	大淀川					